

# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第281号 平成8年5月



「多摩川の桜道」 安富一夫

## 目

## 次

	頁		頁
1. 特集「医師会の活性化について」		2. 理事会報告	広報部 … 11
医師会活動の活性化のために		3. 会員通知・医師会の動き	事務局 … 18
吉野住雄 … 2		4. 各部だより	
今後の互助会運営に関する一私見		学術インフォメーション	学術部 … 20
山田正哉 … 4		5. 文芸随筆諸事百般	
医師会活性化と在宅医療		ベトナムの古都を訪ねる旅	
西村邦康 … 5		近藤 肇 … 22	
いま病診連携について思うこと		6. 同好会短信	
坂本保己 … 8		ゴルフ部便り	高水松夫 … 32
医師会活性化への一私見		7. お知らせ	事務局 … 34
松原貞一 … 9		8. 表紙のことば	安富一夫 … 35
		9. あとがき	玉木一弘 … 35

# 特集 医師会の活性化について



## 医師会活動の活性化のために

吉野住雄

日ごろ医師会の仕事に忙しくしておられる先生方には申し訳ありませんが私は12年前に病氣以来医師会の仕事に疎遠になり医師会館に行くこともまれになりました。それでもレセプト提出などで医師会館に行くと、いつも思うことは「どうしてこんな不便な所に医師会館があるのだろうか」です。西多摩の医療の中心となるべき医師会館がいつまでも現在の一方通行の路地裏に居座っていて良いものでしょうか。

1974年発行の西多摩医師会六十年史を見ると諸先輩の大変なご努力の末、昭和32年に敷地を購入し昭和33年会館が新築落成したことが分かります。立地条件として当時はまだ車社会ではなかったので駅から歩いて行けるという考えもあったと聞いています。更に昭和50年代の始めころ当時の高水会長以下役員の方々のご努力により現在の駐車場を入手したことは私も知っております。

### 医師会は地域社会にどのように貢献するか

医師会というのは最初は近隣の医師たちの親睦団体にすぎなかったでしょう。それが社団法人の形を整えた後でも社会へ何かを貢献するというよりも会員に何らかの便宜を与える団体としての性格が主体となっていた時代がかなり長く続いていたと思います。今でも「医師会に入ってもたいしたメリットはないね」と言う声を聞くことがあります。これはそのころの名残でしょう。医師会の在り方について、社団法人の定款にある通りの在り方であるべきだという反省が生まれてきたのはいつ頃のことでしょうか。私は武見太郎日本医師会長が亡くなって医師の社会的地位が急速に低下して来たころからではないかと思っています。そして今、頭で反省するだけでなく社会への貢献を実行しなければならない時が到来しているのではないのでしょうか。

### 反省だけならしていた

もう十数年も昔になります。が会員有志と集って医療のこと、医師会の在り方などについて討論会をもったことがあります。金曜会と称してそれなりの評価を得た会でした。医師会の対外活動についても討論はしましたが、西多摩全体の住民を対象に活動するには現在の医師会館は何としても立地条件が不適當に思われました。

いかがでしょうか会員の皆様。会館をもっと活動し易い場所に移転することを考えてみませんか。

### 青梅インターならどこからも近い

移転先としては、この春開通する圏央道青梅インターのちかくが最適と考えています。あきる野市まで開通すれば文字どおり西多摩医療圏の中心地となりうる場所と思います。現在ならあのあたりはまだ畑ばかりなので入手できるのではないのでしょうか。広さは1000坪以上欲しい。現在の敷地は318坪だからできることならその5倍くらいを望みたいところです。後に述べるようないろいろな事業を行うためにはそのくらいあればと思います。どうすれば土地を手に入れ、会館を建てられるでしょうか。私の策を述べますから一緒にお考え下さい。

### ふみだそう 第一歩

第一段階 会館整備積み立て金として留保されているものその他で現在約一億円近くはあるようだから二億円借り入れて計三億円ではどのくらいの土地が手に入れられるでしょうか。もちろん土地は社団法人西多摩医師会が買入れます。

第二段階 その土地を「株式会社西多摩医師会」が借りてバラックの建物を建てます。その建物を社団法人西多摩医師会が賃借して医師会館として使います。何か回りくどいことをしているみたいですがここが味噌なのです。また唐突に「株式会社」を持ち出して甚だ申し訳なく思います。しばらくこの株式会社について説明します。

### 自由経済社会の中では

医師会が対社会的活動を行うにあたっては利益が出るかも知れない事業も含まれることが考えられます。もし利益が出た場合、社団法人が営利事業を行うのは定款に照らして好ましくない云々の指摘を受けることが予想されます。そのような事態を避けるためには医師会とは別の組織を通して活動する方が自由に活動できると考えるのです。その代理組織として株式会社の設立を提案する訳です。

### どのような会社を作るか

西多摩地域のすべての医療機関はそれぞれ1株を所有します。それが約190株、医師会自身も50株を持ちます。合計240株。1株5万円の出資とすれば資本金は1,200万円となるので株式会社は設立できます。新規に開業する人は若干のプレミアムをつけて医師会から1株を購入するし、また廃業する人は適正な価格で医師会に引き取ってもらっても良いし、また誰かに譲渡しても良いでしょう。ただしもともと利益を目的としていない会社の株だから値上りは期待しないほうがよいでしょう。

### 会社の事業と目的は

会社の行う事業の第一は、医師会から土地を借りてそこにバラックの建物を作り医師会に賃貸することです。すなわち貸家業です。資本金と若干の借入金で現在の会館からホールを除いたくらいの建物は作れるでしょう。単純に医師会の土地に医師会自身が建物を作ったのでは後で述べるような利益の移動がやりにくいのでこのように考えたのです。会社は医師会から借りた土

地の地代と医師会に貸した建物の家賃を医師会と間でそのときの経営状態事態で流動的に決められるようにしておきます。

事業の第二は在宅介護、在宅療養の支援など高齢化社会に対応する事業でしょう。そのほかにも取り組むべき事業は多いと思われませんがそれらについて述べるのはこの稿の趣旨ではないので省略します。会社が第二の事業で得た利益は法人税その他を考慮したうえで、利益を医師会に残すか会社に残すかそのときの事情により考えます。このときに土地と建物の所有を別々にしたことが役立つでしょう。

### 直接医療に関する事業は診療所で

第三段階 第二の事業とその他の事業を行うにあたって医療機関でなければならない事業もある筈ですからそのために医師会立診療所を設けることも考えられます。その場合、診療所の収益は家賃として会社に納め、その結果最終的には収益は医師会にはいることになるでしょう。

第四段階 第一段階で借り入れた土地代金はバラックの建物ができた後現在の敷地を適当な時期に売却して返済します。路線価からすれば返済できそうに思うのですがどうでしょうか。

第五段階 利益が医師会または会社に蓄積されてそれほど遠くない時期に恒久的な会館を建てることも可能になるだろう。

### さてどうでしょう

とまあ以上のように考えたわけです。ご理解いただけただけでしょうか。経済のことなど全く分からない私が考えたことですからこの原稿を書く前にどなたか経済のこと医療のこの分かる方にご意見を伺うことも考えました。しかし素人は素人として自分の考えをあからさまに出すことも一つのやり方と思い投稿した次第です。なにか役に立ちそうな意見とお思いでしたらご検討下さい。

## 今後の互助会運営に関する一私見

山田正哉

西多摩医師会互助会設立の経緯に関しては、会報241号に記載し、また、会報227号には互助会給付金額に関して、会員の入会年数に応じて給付額を増額変更することがあったので、これに対し互助会と共済組合的な考えの違いと、会員の高齢化に伴う入会年数の多き者の増加により基金が底をつく恐れがあるから一考を要する旨を会報229号に記載し、平成3年5月25日開催の臨時総会の西多摩医師会定款改正の席上で、A会員全員を互助会々員にすることに対して考慮するよう反対意見を述べたことは、会報223号掲載されている。

医師会が生命保険事務手数料を積立保管してた特別会計の全額を、今後医師会に繰り入れることを提案し昭和47年7月27日の臨時総会で可決承認されたことは、会報256号に記載した。その後この特別会計の使用に関して、種々論議の的となり平成7年3月25日の平成6年度第2回総会に於て、多額な全金額を互助会に繰り入れることが承認され会報268号に報告されている。

定款施行規則検討委員会も（会報275号）互助会は本会と別個のものとして、また、役員も別個に選出して運営し、入会金、会費、給付額も見直す必要があると答申している。

然るに、その後互助会の運営に関しては何等協議された様子もなく、唯莫大な金額を寝かして如何に運用するかも理事者側から説明がない。

そこで私の考えの一端を申し述べて、今後の運営検討の糧の一部にでもして頂ければ有難いことだと思ふ。

別個のものとして運用するには、今までのような会員の病気、死亡の見舞、会員の損害に対する見舞金の給付のみを事業としていては、21世紀に向って邁進する医師会として会員の福利厚生の上に利益になるであろうかと考えざるを得ない。時代の趨勢を考えると協同組合的な体制の下に、今後運営して行かねば会員のメリットとなるものは無いように考えられ。

それには先ず法人格を取得し、現在医師会が保険会社と契約提携している生命保険事務手続き問題を移行させること、会員の納税事務の一括遂行（青色申告会の包含）カルテ、レセプト、コピー用紙等の販売、医療器具のリース事業、会員の日常生活に必要な物資の斡旋販売業務等を実施すべきで、西東京医師協同組合と契約を締結して、当医師会員の事務代行等を実施し、将来に向って独立して事業が遂行出来得るような体制確立に努力しなければならない。

今後協同組合を設立するには、現在の資金では不十分な故に会員から一定額の資金醸出を入会金として徴収し、毎月会費を集めて事業計画を立てて運営し、将来は会員に対し幾分かの配当金を給付する位にせねばならないだろう。

各地区から適当数の理事を選出して、互選により会長、副会長なりを決定すべきだと思ふ。

これからは若き世代の人達の活躍する時なので、禍根のないようユックリと検討して立派な組合を設立して活動されることを希望します。

## 医師会活性化と在宅医療

西村 邦康

### 『意識変革』

先日ある雑誌に医師の定年はドイツ68才イギリス70才の資料が今後の医療保険制度の改革を議論している医療保険審議会に提出されたという記事を読んだ。西多摩医師会の65才以上の診療所会員数は48人でA会員の28%である。医師の定年は保険制度の問題であるばかりではなく我々のライフスタイルを問いかけているといえる。国は新しい日本型福祉社会の構築のため介護保険創設等、社会保障制度の改正と同時につよく医師の意識改革を求めている。医師会が問題提起している医師会活性化は新規事業を行うことではなく会員の意識変革と会運営を再検討して社会の変革に対応する活動で専門団体として持てる機能を社会に還元することであると考える。在宅医療もその一つのテーマである。

### 『在宅医療の顔は見えるか』

今回の点数改正で、医療は急性期医療（高次医療と一般医療）と療養支援と保健の二つに機能

分化されることが明確になった、診療所の役割は急性期一般医療（軽症）と成人病管理（保健）と高齢者医療（急性期一般医療と療養支援）で在宅医療参加への要請はますます強くなっている。

現在、在宅医療の指標とも言える『寝たきり老人総合診療料』の当地区での届出医療機関数は32医療機関であり西多摩の一般診療所の約3分の1にあたる診療所が、在宅医療に携わり地道に地域医療に貢献している。しかしこの在宅医療の活動が市民に見えているとはいえず、残念である。それは我々の理解不足で高齢者ケアシステムでの医師の役割は訪問診療で往診をすれば良いと考え、在宅医療の活動を点のままですら、面の広がり＝他分野との連携への展開をしなかったことによる、また医師会に1) 在宅医療は医師会の主導権のもとという固定観念 2) 医療、福祉の制度の違いの知識不足 3) 包括医療、広域医療の概念の混同等々社会保障の理念及び制度に若干の認識不足があったためである。

### 『高齢者サービスの現況』

数年来訪問診療を行っている高齢者に訪問診療の際、センターでの入浴サービスはどうだったと聞いた所先週は風呂に入らなかった梅見にいったと顔を紅潮させて思ってもいなかった梅見の模様を楽しく話してくれた。またある高齢者はセンターでの誕生会の写真や張り絵の作品を見せながら高齢者サービスセンターの楽しい一時を話してくれた。今まで自分の部屋に閉じ籠り会話もなく暮らしていた高齢者が多くの人と会話ができ生き生きしたさまを見てサービスを勧めた甲斐があった。送迎、入浴、手芸指導等社協職員ボランティアのご苦勞は大変であるが、これこそ高齢社会福祉の船出の時と時代の変化を痛感した。介護人の介護疲れでショートステイを勧めた95才の高齢者にショートステイの感想を聞いたところ今まで拒否し続けた態度が一変して、皆と話しが出来て楽しい、また行きたい、そのうえ娘たちに迷惑を掛けたくないからホームに入っても良いとまで話した。在宅医療の役割には身体管理の面ばかりではなく、高齢者サービスメニューの情報の提供とケアサービスを要介護者、介護者に選択させ、サービスを通して要介護者に社会との連帯を感じさせると言う大事な面があると考えます。

### 『自治体、関連団体業種との連携』

福生市の高齢人口は5,985人、人口率9.9%で在宅寝たきり老人は105人、入院が78人である。この寝たきり老人及び虚弱老人を含め、訪問指導（保健婦）の利用者は52名、ヘルパー派遣利用者は85名、有償ボランティア利用者は61名、デイサービス利用者は137名である。このように多くの要介護者が在宅福祉サービスを受けている。しかし医師はこの実態を知らない、在宅ケアの一翼を担っている以上これらのサービスの実態を知る必要がある。福祉保健業務が自治体に移管され福祉が地域の主題となった現在、在宅医療の問題も西多摩地域医療保健衛生協議会（医療協）の場で十分討議し各自治体のレベルを上げる必要がある、実務的な問題は高齢者サービス調整チーム等各協議会を通して実施主体である自治体及び関係諸団体との連携を密にして在宅ケアの情報交換を行うことが必要であり高齢者サービス調整チームを年一回のセレモニー機関に終わらせることのないようにする。また重要な課題である介護保険の介護認定業務、ケアマネージメント、ケアプラン作成は関係機関とシュミレーションを行うなど学習する場があればと考えそのため新たな委員会を設置することも必要と考える。また在宅サービスの柱になっている市町村社会福祉協議会の理解と参加が必要である。

### 『介護情報提供』

ケア連携は情報交換で始まる。このケアグループ間の情報交換の実情は医療機関、施設、自治体でまちまちであり幾つかの問題がある。保険診療では老健施設への情報提供、入院患者の自宅へ退院時の自治体宛の情報提供等は情報提供料が算定されその様式もきめられている。ケア連携の情報交換もこの仕組みを活用して、ケアシステム推進のために様式、費用負担等を検討し西多摩地域は同一様式にする必要がある、ここで在宅医療推進のため特に入院患者の自宅退院時の自治体への情報提供の保険上の規定に注目すべきである。この退院時情報は病院→自治体→自治体→診療所=在宅ケアとなり、通常の病院→診療所とは別ルートである、これにより新しい連携方式が作られることになる。

### 『医療構造変化と公的病院の役割』

保険改正で公的病院は地域の中核病院として高次医療に専念することが望まれている。在宅医療の成否は公的病院の運営方針の如何に掛かっている、公的病院管理者の意識変革を強く求めたい。患者逆紹介、前記の退院時情報提供を参考にして高齢者在宅サービスの充実に協力して欲しい。

### 『グループ診療の可能性』

以前グループ診療は否定的に考えていた、しかし現在32の医療機関が在宅医療に関与している実績を踏まえこれらの医療機関と連絡を取り合いグループ診療の可能性を検討するのも一つの課題と考える。またヤングオールドドクターの一人として在宅医療は死の問題を現実として考えているヤングオールドドクターの役割と考え多くのドクターが参加して気楽に在宅医療のグループ診療ができればと思う。

### 『寝たきり老人用の緊急ベットの確保』

自治体、市民にはこの『寝たきり老人用の緊急ベット』の意味が充分理解されていない、今国が目指している在宅ケアシステムの根幹である在宅医療はこのベット確保なくして進展しない事を強調しベットの確保の要望を強く行う必要がある。

### 『まとめ』

以上種々高齢者ケアについて述べたが要は介護保険制定を視野に入れて現在のケアシステムのメニューを一つ一つ検証して介護認定作業にまたケアマネージメント、ケアプラン作成にどの様に関与していくかを考える事が必要である。

医師会の活性化とは会員が医師会員としての存在感を感じ医師としての自負をもつ事である。個々の会員は医師として診療を通じ良い医療を社会に還元できることを医師の誇りとしている。医師の医業活動には医師会に入会する入会しないは全く関係がない。しかし医師個人の社会的な活動が組織化され専門集団としてより大きな力となりその専門的意見が地域の福祉医療分野に反映し地域の福祉医療が向上すればこれはまた医師の誇りである。医師会の役割はこの個々の社会的活動をリード、統括しそれを組織的活動にする事である。それが医師会活動と言える。活性化とは繰り返しになるが、会員の意識改革と会運営の再認識であり、それは換言すればリーダーシップの問題である。

## いま病診連携について思うこと

坂 本 保 己

病院と診療所との協力関係が病診連携とよばれ、地域医療活動に欠かせない重要な課題として意識されるようになったのは、ここ十数年のことかと思えます。ことさら、あらためていうまでもなく以前から開業医（いまは診療所と公称されますが）にかかった患者さんが入院を必要とした場合、当然ながら患者さんは病院に送られ、双方の間で情報交換が行われて来たはずです。ごく自然と医院は外来診療を、病院は主に入院診療を引き受け、その分担は患者さん側の選択から成り立っていたと思います。いまでもその基本に変わりはないはずですが、なぜ今、あらためて病診連携なのか、またそのために何が不足し何が必要なのか、いまの医療の現場に立って考えてみたいと思います。

病診連携が改めて重要視されるようになった背景の一つには、わが国の疾病構造と医療技術の変貌が大きくかかわっていると思います。急速な経済成長を果たしたわが国は一方で生活が肥満化し、脳血管障害、悪性腫瘍、心臓疾患が急増、それらは主な死亡疾患ともなりました。交通事故、産業事故あるいは老人疾病も増加しました。その結果、新しい診断技術、治療技術が次々と導入され、医療は専門化し、救急医療が日常化し、そのための高価な医療機器が必要になってくると、病院機能は特殊化し、医療の一貫性を保つために以前に増して診療所と病院の分担協力が重要となり、あらためて病診連携が大切にされるようになったものと考えます。また角度を変えてわが国の医療政策から見てみると、病院の機能を救急医療、入院医療中心に誘導するための診療報酬改定がなされ、病院と診療所が患者紹介で連携するべく誘導されていることは周知の通りです。一方で行政は医療費抑制を目的にそれぞれの施設の生きのこりに条件を付けつつあることも忘れてはなりません。病院についていえば療養型病床群への誘導で一般病院削減しかり、患者サービスなど質の評価しかり、それぞれの施設は経営が優先し病診連携がおろそかにならないともかぎりません。病院職員が10倍、ベット利用率50%経営の成り立つ米国には底辺患者の切り捨てという恥部があり、公営で景気にかかわらず医療費抑制をしない北欧には高額税という大きな国民負担がありますが、振り返って日本をみるとあまりに医療技術の評価が低く、病診連携という患者サービスさえも犠牲になりかねません。

厚生省情報部によれば全国的にみて平成5年度の入院患者数は病院、診療所とも減少し、一方外来患者数は病院で増加、診療所で減少といわれ、患者の大病院集中化の一端が伺えます。この傾向を是正する誘導は確かに行政的に行なわれつつあるものの、やはり同じ医療圏の医療施設側が自発的に協力し合い、工夫しなければ、現状の改善は困難だと思えます。ただちに一切の外来をなくすことは現実問題として不可能ですが、病院と診療所がともにその機能を充分果たせるように、今後病院の外来は特殊専門外来に限るべきと考えます。厚生省は6月から標榜診療科目の新增設を予定していますが、病院外来がより専門化する一方で、それら多数の科の中から適切な科を選択するのは患者さんでなく、それこそが診療所の機能であると思います。西多摩地域の全病床のうち一般病床として利用し得るのはその内の40%で全国平均80%に比してあまりにも少ないことはすでにご承知とおもいますが、数にして少なくとも1,000床以上は不足しており、救急



入院、検査入院、特殊治療入院など病院に対する診療所の要請にすみやかに応えるためには、先ずこの物理的障碍を解決しなければなりません。増床は地域自治体としても是非積極的に取り組んでいただきたい問題です。また病院側が出来ることとして、緊急時は別として、紹介患者さんについて前もってFAXなどの方法で必要事項の連絡がいただければ、その段階で新患受付の手続きを済ませ、来院時に待たずに診療を受けられるよう事務手順が図れるのではないのでしょうか。病院側としては、診療所からの紹介患者さんの返還は安定した段階では必須であり、その際に患者さんもまた喜んで戻っていただけるような信頼関係が病診相方に生まれることを心から願っています。

## 医師会活性化への一私見

松原 貞一

「医師会の活性化」は、どこの医師会でも唱えられている古くて新しい課題である。医師会総会に出席する会員が多くなれば、会の方針や現状を理解し認識してもらえ、ひいては医師会に対する関心度も高まって活性化の一役となるのではと、健診委託料等を総会会場で支払って出席会員を増やしてみたらという妙案を出した医師会さえある。役員選挙の無い総会はそれだけ会員の関心度も薄れるので、会長選挙位は総会の場で行なうべきで、是非一票をと頼まれた会員もあつまって、総会は盛会となり活性化に繋がると云う人もいる。しかし選挙の後にしこりが残るのは世の常であり、これまでの西多摩医師会の歴史の中にも、会長選を境にして会が二分し、長い間争いが続いて、禍根を残した記憶も消えてはいない。派閥が出来て議論をし意見を戦わせること自体は必ずしも悪い事ではないが、妥協のない論争が何時果てるともなく続いたりすると、お互い傷つくばかりで、派閥争いが活性化に繋がった例は少ない。

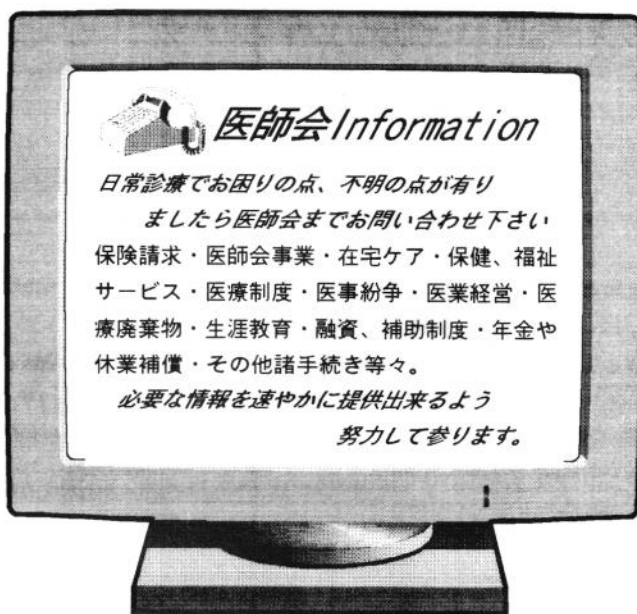
「医師会の活性化」とは、医師会が活力のある生き生きとした強力な団体として成長することであり、その為には当然のことながら強力な執行体制と共に、これを支える会員の積極的な参加協力の意識がなければならない。会員は執行部の不祥事を非難攻撃、執行部は会員の無理解と非協力を嘆くばかりでは、活性化の夢はとうざかるばかりである。

「古き良き時代」というが、医業経営にも確かに良い時代はあった。しかし良い職業は30年は続かないという定説のごとく、この10年間のGNPの伸び率は年3.6%人勤アップでさえ2.4%であったと云うのに、診療報酬アップは年僅かに1%にさえ満たなかったと日医FAXは書いている。医業経営の安定化なくして、地域医療の向上など望むべくもない。平和な福祉国家としての我国においては、健康は国民の最大の関心事であり、社会保障 保健 医療 福祉の充実は、国の最重点施策である。人口あたりのCTやMRIなど高度機器の数は世界の水準を超えており、総ての国民に世界最高の医療が確保されているというのに、診察料 手術検査料など医療費単価の低さは欧米に比ぶべくもない。最高の平均寿命を誇る世界に冠たる我が国の保険医療体制も、結局は我々医療機関の犠牲の上になりたっているといっても過言ではない。さらには会員が自らの診療に熱心のあまり、時代や周囲に対する関心の度を失えば失う程、医業体系が逼迫していくのは、診療報酬改定の度我々が実感している所である。医政無くして医療無しといわれる如く、

政治や時の流れに無関心では、医業の改善も望めない。沈黙の集団に政治が目を向けないのは、今日の社会常識である。数は力と言うが、日医を始めとしてどんな強力な執行部であっても、後方にどのくらいの支援体制があるのか執行部が不安を抱くようでは、総ての交渉事も大きな成果は望めないだろう。医師会の活性化の為に今なによりも大事なことは、もの言わぬ集団から、何事にも発言をするうるさい医師会への脱皮ではないだろうか。

社会が高度化し安定してくると、どの社会でも無党派無関心層が増加して来て、組織の大半は発言もしなければ行動もしなくなるのも現実である。地方選挙の投票率をみても、昨今では5割を超えることが多くない。自分の仕事には熱心であるが、その外のことには汗も時間もかけたくないという人達が多くなるのは、日教組や労働組合の組織率の低下をみても理解の出来ないことではない。しかし両組織の社会的衰退ぶりを見るにつけても、どこか医師会と似通っているところはないであろうか。

活性化の原動力は、なんと言っても執行部を通してでなければならず、執行部の活性化を通してこそ医師会も活性化する筈である。その為に役員が時間を割き努力をしなければならないことは当然であるが、会員も一人一人が執行部の提案に対する賛否をはっきり発言することによって執行部を背後から支え、会員の意見の最大公約数を集約した執行部の決定にはみんなに従い、小異を捨て大同につくという気持ちが大事なのではないだろうか。消炎鎮痛剤の用量用法の変更、入院患者の他施設診療費の請求方法の変更、高請求点数即犯罪とし兼ねない新指導大綱監査要綱制定など無理無体な規制や締め付けが後を絶たず、医師会としては矛を納めている暇は無い筈で或る。道は遠いかもしれないが、出来ることなら枝葉末節の論争を避け、当座の対応に明け暮れることなく、せめて10年先の医師会を見越しての議論を尽くして、会員一同一致団結、力強い活力あふれる西多摩医師会の誕生を夢みてやまないのである。



# 理事会報告

★ Information

4月定例理事会

平成8年4月8日

西多摩医師会館

## 【1】 報告事項

### (I) 総務準備会報告 (3月30日)

(宮川会長)

宮川会長、真鍋・大堀副会長、玉木理事にて、総務準備会を行い今後の理事会運営、職務分掌案等につき打合せを行った。

### (II) 各部報告

(学術部) 日本医師会生涯教育申告書は現在46件と少ないので御協力願いたい。

(小机理事)

(公衆衛生) 平成8年度予防接種実施委託料について合意があった。 (大堀副会長)

(保険部) 入院中患者の他機関受診については従来通りのあつかいになった。

(石田理事)

### (III) 各地区会よりの報告

(各地区長)

(青 梅) 4月12日、役員会を予定

(羽 村) 4月16日、定時総会を予定

(福 生) 4月2日、総会を行い林 實地区長、玉木一弘副地区長を選出した。

## 【2】 報告承認事項

### (I) 入会会員について

— 承認 — (玉木理事)

### (II) 平成8年度青梅・福生保健所各種協議会等委員の推薦について

(玉木理事)

#### 1. 保健所保健福祉サービス調整推進会議

大 堀 洋 一

#### 2. 在宅難病患者訪問指導事務連絡会

細 谷 純一郎 石 田 信 彦 大 堀 洋 一 野 本 正 嗣

#### 3. 地区母子保健対策協議会

高 野 和 章 林 良 樹 川 辺 隆 道

#### 4. 健康づくりフォローアップ事業 (年6回開催)

肥満予防コース (5月) 野 本 正 嗣

高脂血症予防コース (6月) 細 谷 純一郎

糖尿病予防コース (8月) 田 中 穂 積

肥満・高脂血症フォローコース (9月) 細 谷 純一郎

糖尿病予防フォローコース (1月) 田 中 穂 積

腰痛予防コース (2月) 卞 在 正

## 【3】 協議事項

- (I) 平成8年度新執行部職務分掌について (宮川会長)  
別掲記事の通り、各部分掌を承認。
- (II) 各種委員会委員の選出について (玉木理事)  
各担当理事が、次回理事会までに候補者を報告する。
- (III) 今後の理事会運営について (玉木理事)  
理事会運営の慣例等につき新理事に紹介し会議中禁煙を取り決めた。  
各理事の理事会への報告事項につき書面提出時の書式を申し合せた。
- (IV) 会長諮問委員会の設置について (宮川会長)  
仮称：定款施行規則改定委員会、情報伝達効率化検討委員会、互助会あり方委員会を設置したい。設置時期は定時総会以降に予定。
- (V) 顧問税理士の選任について (玉木理事)  
本会及び互助会会計等に万全を期すため、顧問税理士を置く。人選、契約形態については、会長と経理部に案を一任し、継続協議する。
- (VI) 役員、事務局間連絡の効率化促進について (玉木理事)  
役員、事務局間の連絡網を整備する。医師会事務電算化の一環として事務局で電子メール受け入れを行う。まず、役員と事務局間の電子メールによる連絡を積極的に試用する。
- (VII) 今後の日程について (玉木理事)
- |     |  |
|-----|--|
| 4 月 | 8日(月) 保険整備会・定例理事会                          |
|     | 10日(水) 法律相談日                               |
|     | 12日(金) 福生病院付属准看護学院入学式                      |
|     | 18日(木) 学術講演会 (西多摩医師会館講堂)                   |
|     | 19日(金) 在宅難病調整委員会 (福生健康センター)                |
|     | 23日(火) 定例理事会                               |
|     | 24日(水) 会報委員会                               |
|     | 26日(金) 経理部会 (予定)                           |
|     |  |
| 5 月 | 7日(火) 会計監査会 (予定)                           |
|     | 8日(水) 法律相談日                                |
|     | 9日(木) 保険整備会・定例理事会                          |
|     | 14日(火) 新・旧理事監事懇親会 (於て 青梅 三河屋) 0428-22-2716 |
|     | 21日(火) 定例理事会                               |
|     | 23日(木) 学術講演会 (ホテル福生国際会館)                   |
|     | ★ 24日(金) 平成8年度第1回定時総会 (西多摩医師会館) 7:30より     |
|     | 30日(木) 学術講演会                               |

## 4月定例理事会

平成8年4月23日

西多摩医師会館

## 【1】 報告事項

## (I) 都医地区医師会長協議会報告(4月19日)

(宮川会長)

## 1. 都医からの伝達事項

## (1) 医師と歩こうチャリティーウォークについて

申込は4月20日まで。参加費500円で、H8年4月29日開催する。

## (2) 東京都地域保健事業連絡会について

平成9年4月、東京都から市町村に移管される母子保健事務等を東京都医師会及び地区医師会の協力の下で円滑に執行していくため、関係の東京都、区市町村及び東京都医師会の三者間の連絡、協議を行う常設の機関を設置する。

## (3) 非加熱血液凝固因子製剤による非血友病HIV感染に関する調査等について

都より対照医療機関109ヶ所について追跡調査を行う。

## (4) 「妊婦健康診査及びB型肝炎ウイルス母子感染予防対策」事業の実施内容の変更に関する件

平成8年4月1日から、従前の「妊婦健康診査」事業及び「B型肝炎ウイルス母子間感染予防対策」事業を一本化して、「妊婦健康診査及びB型肝炎ウイルス母子感染予防対策」事業とする。

## ★ (5) 診療報酬明細書等の記載要領に関する件

各医療機関あて送付する。

## (6) 労働保険医療協会評議員の選出依頼について

(協議事項参照)

## (7) 健やかTokyoについて

地区医師会広告を掲載しできるだけ協力してもらいたい。(既報)

## (8) NHK公共放送'96ポスターの診療所等での掲示方について

## (9) メトロポリタンTVについて

医師会番組は適当なスポンサーがつくまで当分の間中止となる。

## (10) 「都医ニュース」4月号について

各地区医師会でのユニークな集会、同好クラブを紹介したいので協力してほしい。

## (11) 災害時医療救護活動マニュアルについて

救急病院にはすでに説明済み。トリアージタグの取り決め等を含め5月に講習会を行う。

## (12) 訪問看護ステーション等設置状況について

老人保健施設27ヶ所、在宅介護支援センター81ヶ所、老人訪問看護ステーション97ヶ所となっている。

## 2. 地区医師会からの報告

## (1) 稲城市医師会の広報活動について

(稲城市医師会)

一般市民向けにヘルスマーターという題の本を発行した。

## (2) 3歳未満医療費公費負担の多摩地域実施について

(三鷹市医師会)

すでに23区では実施されているが三多摩の地域格差にもなるので東京都医師会も強力にバックアップしてもらいたい。

## (3) 多摩市医師会FAXニュースについて

(多摩市医師会)

医師会より会員に対してFAXニュースを流す試みを行っている。

## (II) 各部報告

(担当部長)

(学 術 部) 日医生涯教育は96件の申請があった。

(保 険 部) 社保再審査請求書の様式が変更になった。

(病院救急) 乳幼児救急事業は三公立、大聖、高木病院と大門診療所で行う。

## (III) 各地区会よりの報告

(各地区長)

(青 梅) 4月12日、役員会を行い分掌を決めた。

(羽 村) 4月16日、定時総会を行い会計報告、事業計画を承認、全員にFAX導入を決めた。

(福 生) 5月10日、理事連絡会を予定。

(日の出) 4月25日、地区会を予定。

## 【2】 報告承認事項

## (I) 入会会員について

— 承認 —

(玉木理事)

## (II) 平成8年度福生保健所各種協議会等委員の推薦について

(玉木理事)

## 福生保健所各種協議会及び委員推薦者

地区母子保健対策協議会

羽 村 尾 形 永太郎 三 枝 襄 二

福生保健所地域精神保健連絡協議会

前任者 大 嶽 栄 二 後任者 新 井 敏 彦

福生保健所保健事業連絡協議会

前任者 宮 川 栄 次 後任者 林 實

**【3】 協議事項****(I) 各種委員会委員の推薦について**

(玉木理事)

【別掲資料】参照

**(II) 平成7年度事業報告について**

次回理事会にて各部報告を検討承認する。

**(III) 互助会役員について**

次回定時総会にて、新役員の選任を行う。

**★ (IV) 老人保健・福祉サービスに係る診断書の書式について**

老人保健・福祉サービスに係る診断書の書式が市町村により異なり、その統一については継続協議中であったが、健康保険診療で市町村への診療情報提供の様式や要件が示されているので、会員や市町村へもその旨周知してゆくことで当面对処する。特別養護老人ホーム入所時等、健康保険外の診断書については感染症について詳細な報告を求められる傾向にあるが同様の様式や要件を準用し、簡略化を計ることを今後の指針とする。

**(V) 医師会事務電算化機器等購入について**

コピー機を入替え、電子メール通信、ネットワークサーバー機能を備えたパソコンを購入する。

**(VI) 医師会文書の電算データベース化について**

医師会の様々な文書を、キーワード、発信元、分掌などで検索出来るようデータベース化し分類、保管することを試みる。

**(VII) 老健施設について**

設立同意書の申請が2件（あきる野及び青梅市）あったので今後協議する。

**(VIII) その他**

- 東京労働保険医療協会評議員の推薦について

石田信彦会員を推薦する。

- 備品（クーラー）の廃棄について

購入後20年以上たち作動しないものを廃棄する。

- ★ ● 日本医師会生涯教育制度について

来年度より自宅学習記入が廃止させるので、地区会主催の学術講演会も本会と連携して生涯教育講座としてゆく。

【別掲資料】

# 西 多 摩 医 師 会

( ) 内 担当副会長    ◎印 担当部長    ○印 担当副部长    ★印 委員長

会 長 宮 川 栄 次        副 会 長 大 堀 洋 一	副会長 真鍋 勉	部 長	担 当 理 事			
	副会長 大堀 洋一	学 術 部 (大 堀)	◎小机敏昭・○坂本保己・村山正昭			学術部
		地域医療部 (大 堀)	◎坂本保己・○高水松夫・奥野 仁 樋口昭夫・玉木一弘・村山正昭 神尾重則・小机敏昭・片平潤一			地域医
		公衆衛生担当	◎唐橋善雄・○奥野 仁・神尾重則			公衆衛
		学校医担当	◎村山正昭・○樋口昭夫・片平潤一			学校医
		産業医担当	◎奥野 仁・○神尾重則・玉木一弘			
		病院・救急担当	◎神尾重則・○唐橋善雄・石田信彦			
		広 報 部 (真 鍋)	◎樋口昭夫・○片平潤一・奥野 仁・ 高水松夫・小机敏昭			会報編
		保 險 部 (大 堀)	◎石田信彦・○唐橋善雄・坂本保己・ 高水松夫・村山正昭・玉木一弘			社保指  国保指
		経 理 部 (真 鍋)	◎高水松夫・○石田信彦・唐橋善雄			
	総 務 部 (真 鍋)	◎玉木一弘・○小机敏昭  福祉主担当 片平潤一 副担当 樋口昭夫			福祉委  医事紛 (電話 保健所	
医道審議会委員			(委員長)平林信隆・(副委員長)塩澤			
西多摩地区医療保健衛生協議会 「医療協」			大堀洋一・真鍋 勉・小机敏昭・玉			
地 区 名	青 梅	福 生	あきる野	羽 村	瑞	
地区長名	大堀洋一	林 實	小机敏昭	真鍋 勉	高水	
副地区長	石田信彦	玉木一弘	樋口昭夫	横田卓史	丸野	



## 各 部 分 掌 図

☆印 副委員長

委 員 会 名	委 員 氏 名			
委員会	★小机敏昭、坂本保己、鈴木孝寿、野本正嗣、村山正昭、森本 晉、諸角強英、渡辺良友。			
療委員会	★坂本保己、石井好明、奥野 仁、神尾重則、唐橋善雄、高水松夫、樋口昭夫、村山正昭、横田卓史、渡辺良友。			
生委員会	★唐橋善雄、奥野 仁、神尾重則、川辺隆道、高水松夫、林 實、樋口昭夫、湯川文朗、横田卓史。			
委員会	★村山正昭、内田萬次、奥野 仁、片平潤一、川辺隆道、瀬戸岡俊一郎、高水松夫、蓼沼 翼、樋口昭夫、百瀬真一郎、吉野住雄、渡辺良友、横田卓史、馬詰良比古。			
集委員会	★樋口昭夫、石井好明、片平潤一、百瀬真一郎、高水松夫、田村啓彦、奥野 仁、小机敏昭。			
導整備委員会	★唐橋善雄、天野了一、伊藤敬一、馬詰良比古、大堀洋一、奥野 仁、笠井富貴夫、川口卓治、栗原琢磨、小林杏一、笹本隆夫、瀬戸岡俊一郎、高水松夫、田代 洋、館野 進、玉木一弘、野本正嗣、葉山 侃、百瀬真一郎、山口太平、山田英敬。			
導整備委員会	★石田信彦、秋山静夫、荒巻武彦、市原 宏、河内泰彦、三枝襄二、斉藤信幸、酒井義生、篠原秀隆、瀬在由美子、田中穂積、田村啓彦、成田 章、野口清美、波田野洋夫、東 吉男、細谷純一郎、山田 登、横田卓史、渡辺良友。			
員会	★片平潤一、樋口昭夫、卞 在正、森本 晉			
争処理委員会 苦情処理 110番)	大堀洋一・川崎健一郎・堤 次雄・玉木一弘・小机敏昭・高水松夫			
単位地区責任者	(青梅)大堀洋一・(福生)玉木一弘・(五日市)小机敏昭			
三朗・木野村幸彦・星 和夫・丸野仁久・山口岱三・湯川文朗				
木一弘・高水松夫・横田卓史・渡辺良友・川辺隆道・片平潤一				
穂	日 の 出	奥 多 摩	桧 原	
松夫	川崎健一郎	川辺隆道	内田萬次	
仁久	湯川文朗			

## 各部だより



学術部

Information



《5月の学術講演会》

① 5月23日(木) 7<sup>30</sup> pm～ 於：ホテル福生国際会館

演題名：「脳梗塞・TIAにおける抗血小板療法」

講 師：東京女子医科大学附属脳神経センター神経内科助教授  
内 山 真一郎 先生

内山先生は、1974年北海道大学医学部卒業、1976年東京女子医科大学神経内科入局、1981～83年米国 Mayo Clinic 血栓症研究室研究員、1995年より現職、米国心臓学会脳卒中評議会・日本脳卒中学会・日本血栓止血学会・日本神経学会の評議員を努められ、各種国際学会等でご活躍中です。今回の講演内容につきまして内山先生より Summary をいただきますので、御紹介いたします。

『脳梗塞の病型・病期別に、抗血小板療法の適応と有効性について、血栓止血学からみた理論的根拠と大規模な臨床治験から得られた統計学的事実に基づき概説する。抗血小板療法の理論と実際をアテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ脳梗塞、一過性脳虚血発作に分けて解説するとともに、急性期脳梗塞と無症候性脳梗塞への適応について触れた後、抗血小板療法の今後の展望についても述べてみたい。また、抗血小板療法の効果判定に用いられる血小板機能検査の最近の進歩についても紹介する予定である。』

② 5月30日(木) 7<sup>30</sup> pm～ 於：ホテル福生国際会館

演題名：「成人喘息の診断と治療」

—最近の具体的な治療の提示を中心に—

講 師：結核予防会複十字病院呼吸器科医長 沖 和彦 先生

沖先生は、1982年鳥取大学医学部卒業、岡山大学医学部第2内科入局、主に気管支喘息の化学伝達物質について研究、1989年より現職、1993年 World Network Asthma Organization 設立会議に結核予防会の代表として参加、現在、ガイドラインの普及調査と普及活動に力を注がれています。今回は、成人の気管支喘息の診断と治療に関し、最近の具体的な治療法の解説をしていただきます。

## 〈学術講演会聴講メモ〉

平成8年4月18日(木)

演題名：「ACE阻害薬—その種類と使い分け」

講師：埼玉医科大学腎臓病センター教授 鈴木 洋 通 先生

Angiotensin II (ATII) は8個のペプチドから成り、生態系をコントロールする役割をもつペプチドと考えている。ATIIの細胞内情報伝達系—心肥大の抑制・血管肥厚抑制。ラットATII受容体のアミノ酸配列の発見—ATII受容体拮抗薬の開発(もうすぐできる)。ATII受容体—I型(副腎皮質・腎動脈の平滑筋細胞等)、II型(副腎皮質・子宮にあり、平滑筋細胞にはなし)、その他V型位までありそう—各種臓器で違う作用。近位尿細管におけるATIIの作用—浮腫性疾患で重要な働きをしている(Na再吸収機構に作用)。高齢者にみられる腎障害—慢性腎不全・糖尿病性腎症・腎血管性高血圧・良性腎硬化症。高齢者にみられる心病変—心不全。「心—腎連関」—慢性腎不全に関連する心疾患(高血圧による後負荷、容量増加(Na貯溜)による前負荷)。心不全に対するACE阻害薬の効果(各種大規模試験の結果)—死亡率の低下、心不全・突然死の予防に有効—腎への作用の効果ではないか、心収縮力の改善が余りなくても死亡率低下—Na貯溜の改善、これが最も強い理由ではないか、と考えている。糸球体内圧の低下、蛋白尿低下。ACE阻害薬の尿蛋白に及ぼす影響—尿蛋白を減らす降圧薬はACE阻害薬だけ、しかし、減塩をしないとACE阻害薬は効かない。ACE阻害薬は、他の降圧薬に比べ、QOLの点で優れている。ACE阻害薬の間での比較では、カプトリルのQOLが優れているが、これはカプトリルは血液脳関門を通過するが、エナラプリルは通らないことによる、と思われる。現在日本では、Ca拮抗薬が60%、ACE阻害薬が20%の使用頻度であるが、ACE阻害薬はもっと使われても良いのではないか。ACEの多型性について(遺伝子型)—ACEの空咳と遺伝的リスク。ACE阻害薬の副作用としての空咳の発現頻度は約15%、発作性・夜間・女性(更年期以後)・非喫煙者に多い。

ACE阻害薬の長所—高血圧・心不全・腎性高血圧に良い、短所—空咳・妊婦では奇形の発現多い・急激な血圧の低下(レニン高値例・極度の減塩(3g以下)をしている例)など。ACE阻害薬は、運動能力・精神活動・性機能など生活の質の点で優れており、代謝機能の異常のある人(インスリン抵抗性・脂質代謝・糖代謝など)にも使いやすい。また、高齢者に使いやすく、心不全・大血管に病変ある場合・腎疾患・糖尿病性腎症などがある時は、第一選択薬とする。老人の場合、カプトリル6.5mg/2×位から始め、1か月位はじっくり待つことが必要。

(小机)

## ベトナムの古都を訪ねる旅

近藤 肇

### \*ベトナム旅行

青梅市の新旧の教育委員と事務局職員で構成する青梅市教友会の有志でベトナムの旅を計画した。昭和27年に、全国的な公選による教育委員制度ができたとき私はその最初の教育委員となった。公選による制度は一期4年だけで、それ以後は新しい制度で市町村長の任命となったのだが、その教友会のメンバーにベトナム研究の第一人者である慶応大学名誉教授の川本邦衛氏がおられることから話が持ち上がり、氏がベトナムの当局と連絡をとられ、ベトナム政府機関の賛助でベトナム訪問の旅をすることとなった。夫婦同伴が私と他の3人の元教育委員の4組、1910年代生まれ、即ち大正ひとケタの77才以上が14人中5名。

企画・渉外連絡・歴史と学術説明・通訳その他一切：川本邦衛 65才

団長：近藤 肇 医師 80才

秘書長：吉野 勇 社会教育部長 56才

団員：館 セツ 元小学校教員 80才、近藤美代子 元家庭裁判所調停委員 78才、谷合良治 元中学校校長 77才、金子幸三郎 会社社長 73才、金子登喜子 主婦 67才、田辺時男 元青梅市助役 67才、谷合邦子 主婦 65才、原島英雄 青梅市郷土博物館長 63才、伊藤武夫 保育園長 63才、川本佑美 主婦 56才、秘書長補佐：吉野 卓 商社員 29才

以上一行は14名。名づけて『日本国青梅市老成知識人視察団』。北のハノイから南のサイゴンまで約1,500キロの縦断の旅に勇躍出発である。

『平成8年4月6日(土) 第1日』

### \*ハノイに第一歩

05：30に青梅市役所前発。バスで羽田へ。

08：50の羽田発の中華航空、台北で4時間以上の乗り継ぎ待ち合わせ、ベトナム航空に。白や紫のアオザイの美しいスチュワーデスの胸から腰の線に目をやっていた私を見て川本先生はニヤリと笑った。

19：00にベトナムの玄関のハノイの空港に降り立った。タラップを下りて空港ビルまでのバスに乗る。「お降りの方はこのボタンを押して下さい」「非常扉」と書いてある古い京都市営のバスである。その車体は赤いペシコーラの広告一色。空港内を走り回っている。

出迎えの人々のゴッタ返す中、ハノイ大学からの3人の出迎えを受けた。川本先生の弟子でハノイ大学の講師であるカン (Khang) さんとその教え子の日本語を勉強している4年生の女子学生トゥ (Tu) さんと、アオザイを着飾った美人のハン (Phang) さん。私のカメラはハンさんを追った。ハンさんは少数民族のメオ族、メオ族は美人が多いそうだ。だが、サイゴンまで我々に同行するのはトゥさんの方でハンさんは来ないという。いささかガッカリだ。もうすっかり暗くなり、あたりが見えない中、バスでホテルに向かう。ソ連が造ったという道路を走り紅河を渡り1時間、やがて町に入る。薄暗い家並みの道にKARAOKEの字が目にとまった。「あれ、こんな場末にまでカラオケが……」。宿泊は国防省の迎賓館のアーミーホテル。中心街のすぐ近くにある。

21：00にホテルに着いて部屋に荷物を運び直ちにホテルのレストランで夕食。私はベトナムへ来たら毎日でもベトナム特有の米の粉のうどんであるフォーを食べたいと思っていた。フォーといってもいろいろあるからエビにはくれぐれも注意だ。

私の旅行前からの心配の種、それはスリ、

ヒタクリそれに、スガタなきエビにはくれぐれも注意だ。私は重症のエビのアレルギーで食べたら1カ月は苦しむ。ベトナムはシーフードの国なんだ。だから私は「食べ物を見たらエビと思え」をお経のように唱えてベトナム旅行をしなくてはならない。

「フォーを食べたいですね」と私は真っ先にフォーを注文。

「先生、エビのないのがありますよ」と川本先生がメニューを見て選んでくれた。フォーには、牛、豚、チキン、エビその他がある。

### 『平成8年4月7日(日) 第2日』

#### \*ハノイの朝

朝6時、空が明るくなるのを待ってカメラを持って外に出た。霧雨模様の天気だ。

壊れているのではないかと思われる家々に生活の動きが始まっている。ホテル前の広くもない道路上では子供たちがフットボール遊びに興じている。客待ちのいわゆる輪タクのシクロ一台、執拗に乗れ乗れと迫ってくる。果物や何やらを天秤棒に担いだり頭に寄せたりした女性が行く。800メートルほど歩きロータリーのある荒れている大通りに出た、腰を下ろす。ホンダに2人3人と合い乗りし群れをなして走っている。ビービーうるさいっらない。ベトナムのバイクはほとんど9割がホンダ、バイクといえばホンダ、ホンダといえばバイクのこと。それがオートレースみたいにぶつかり合はんばかりに彼らはひっきりなしにビービー鳴らして走る。首都ハノイだが信号はめったにない。ノソという三角傘の



早朝の町を行く女性

帽子を被った物売りの女性が行き来している。一日が始まる朝の風景だ。

1時間半ばかりしてホテルに戻る。ボール遊びをしていた子供はもういなくなり道路の両側にたくさんの物売りが来ていた。ホテル前の客待ちシクロは6台にもなっていて乗れ乗れとうるさい。「ウルサイ! いい加減にしろ!」

#### \*住民の街での朝食

08:30にバスで朝食に出発。ビービーピーホンダがぶつかりそうに走り回る。着いた所は人々が路傍で朝飯を食べたり何やらガヤガヤやっている街のドン真ん中。

「気味が悪いねえ」とみんなの顔が引きつっている。家内が用意していった清浄紙をみんなに配る。茶わんや箸を丁寧に拭く。ベトナムはどこへ行ってもミネラルウォーター『La Vie』のラベルのペットボトルが出る。脂ぎった食事、朝はほとんど食べない私だか無理に口に押し込む。ホンダは行き交いが物売りは寄ってこない素朴な住民の街だ。



住民の街のドン真ん中で朝食

#### \*ホー・チ・ミン廟

先ずは社会主義国ベトナム建国の父ホー・チ・ミン眠るホー・チ・ミン廟へ。

ホー・チ・ミン廟は全国から集まった人々があふれ入場の順を待っている。赤いスカーフを首に巻いている少年少女の何百という行列が目につく。赤いスカーフはホー・チ・ミン少年団のシンボルである。旧ソ連にあった

ピオネール少年団と同じだ。

我々のバスはグルリと回り、広々とした大通りの広場へ。ここはホー・チ・ミン廟の儀式用の正面らしい。特別待遇らしい外国人の観光客が並んで順番を待っている。カンさんが物々しい警備の軍人に交渉した。「大切な日本からのお客さんなんだ。共産党中央委員のわが教授の招待で来られたが忙しい方たちだ」。待つことなく入れた。

カメラの持ち込み禁止、話すことも立ち止まることも禁止。静粛に歩く。ガラスケースの中で眠るホー・チ・ミンの遺体の四方にピクリともしない蠟細工のような衛兵が立っている。

ホー・チ・ミン廟の区域内にはホー・チ・ミンの使用した建物やフランスの旧インドシナ総督府や一本の柱の土台で建てられた珍しい一柱寺などがある。

### \*文 廟 (ヴァンミョウ)

11世紀に建てられたベトナム最初の大学、15~18世紀にかけての上級官吏の登竜門たる科挙登用試験合格者の名前が石碑にズラリと彫られている。我々の訪問を援助してくれたハノイ大学教授で、川本先生の友人でありカンさんの師でもある共産党中央委員の溜先生の先祖の名前も刻み込まれていた。中国の制度を大いに取り入れた時代を語る歴史だ。

ハノイの地図と首っぴきで市内をバスでグルグル回っていると、旅行前から本をよく読んでいたので良く分かる。ホアン・キエム湖の北側の旧市街には、業種別問屋街があり、漢方薬の店、衣料品店、食料品店、楽器店、お菓子屋、仏具店、金物屋などあらゆる業種の店があり、墓石の並んだ墓石屋通りもある。

### \*ホアン・キエム湖

ハノイの繁華街の中心部にホアン・キエム湖がある。ホテル、レストラン、航空会社、デパート、カフェなどが並んでいる。

この観光客の集まるホアン・キエム湖に行き休憩。各自ジュース、ビール、コーヒーを飲む。私はマンゴとパイナップル、2杯も飲む。濃くて実にうまかった。

ホアン・キエム湖のような観光客の集まる所は物売り、物乞いがすごい。子供は言うに及ばず、老婆、母子連れ、手首のない男など見渡すところ観光客より物売り、物乞いの方が多い。蠅や蜂を追っ払うようにして歩く。

赤い小橋を渡る小島に、13世紀にモンゴルの侵略を撃退したチャン・フンダオ王が祀られている玉山神社という祠がある。

私はズボンのポケットからはみ出してハノイの地図を持って歩いていた。

「あなた大丈夫？そんな所にももの入れて」と家内が言う。

「大丈夫だよ、取られたって地図だから」

昼食にもカンさんは旨くて安いというレストランへ連れていってくれた。華南飯店というから多分華僑の経営だろう。ここも、物売り、物乞いは全くない通りだ。

ズボンの後ろ右ポケットに手をやると地図がなくなっていた。「さては、あのホアン・キエム湖の洪水のような物売りの中を歩いてやられたんだな、やっぱり」。

### \*水上人形劇

昼食後、ベトナムの歴史が学べる歴史博物館へ。我々は観光でなく視察に来たのでビザも観光ビザでなく学術視察というビジネスビザだ。川本先生の詳細な歴史的考古学的説明に耳を傾ける。終わって市内巡回。右側通行なのだが右側も左側もないバイクの洪水。良く事故が起こらないものだ。

ハノイ最大の美しい西湖(タイ湖)周辺の高級な家々、ヴィラや金持の別荘が立ち並び、リゾート開発が進んでいる地区を見る。もともとフランス人の地区だった。

西湖畔の神・仏・キリストの多神教の鎮国古寺というお寺の見学をして、すぐそばの水の上レストランで休息する。メロディーが流れてくる。アレック、五輪真弓の“恋人よ”だ。となりに座ったハノイ大学生のトウさんが“こいびとよ そばにいて こそえるわたしの そばにいてよ”と口ずさむ。「日本からきた日本語教師のオーモリ先生に教わたったの」と彼女はいう。

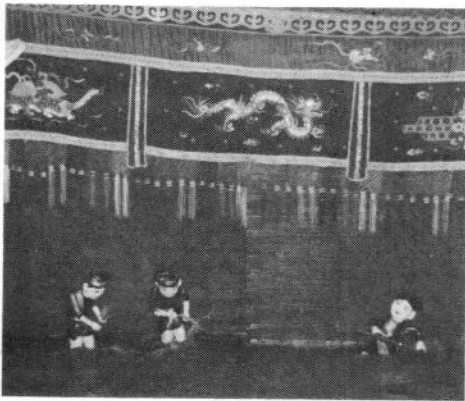
午後6時30分開演のホアン・キエム湖の水

上人形劇というのを見に行く。一番前列の席を取っておいてくれた。水上人形劇はベトナムが世界に誇る伝統芸能である。日本にも来たことがあるという。黒子が水中でカーテン越しに水上の人形を飛んだり跳ねたりと操り、音楽と踊り、歌とせりふ、竜の口から花火が吹き出るなど多彩な演出、1時間余り絶賛と感激のひとつときであった。

水上人形劇を見て夕食はまた昼と同じ華南飯店へ。「これ何かな?」。スッポン?

「ううん、俺、それ分かっていたら食べなかったよ」

アーミーホテルに戻ったのは午後9時半。



カーテンの向こうで操る水上人形劇

『平成8年4月8日(月) 第3日』

### \*ショッピング

08:30出発でまた住民の街での朝食に。

食後はショッピングに向かう。バスを降りた場所は、昨夜人形劇を見たすぐ近くで、東京で言えば、銀座のソニービル前と思えばいい。

ピーピーピーの雑踏の中を歩く。仲間を見失っては大変だ。

店を覗いて各自買い物をしているが、人の肩と肩がふれ合う中をキョロキョロしなければならぬ。

「これじゃ、迷子になっちゃうぞ」

心配しつつ歩いたこのショッピング、バスを降りた場所に無事集合。と思いきや、

「あれ!、Tさんが来ないぞ」

さあ、大変だ!

カンさんがトウさんとバイクに乗って捜し回っている。

「ハノイ大学の共産党中央委員の教授の大切な日本からのお客さんが迷子になったのを捜したいからバイク貸してくれ」とカンさんは急いで手に入れた。

かなり時間がたってTさんがタクシーでホテルに帰っていたことが判明し無事解決。

### \*ダナン

13:00発が2時間遅れて15:00発。

ハノイ空港からベトナム中部最大の都市のダナンに向かった。所要時間約1時間。

飛行機の中で、ビールを飲む。台北からの飛行機もだったが、なぜベトナム航空はこうもビールやジュースがぬるいのだろう。

私には、戦時中、敵アメリカの潜水艦の魚雷を避け、南シナ海をベトナム目指してツーランに向かい、ツーランに避難して陸地沿いにサイゴンに入港した思い出がある。ツーランは、今のダナンである。

ダナンは人口約80万、ベトナム戦争中はアメリカ軍の最大の基地があった。沖縄からB52爆撃機がジャンジャン発進してきた基地だ。今はそれが廃墟と化し手つかずのままになっており、その遺物いずれ戦勝記念の施設にされそうである。

バスは夕方、宿泊する海岸に面したモダンなホテルへ。落ち着くのかと思ったら早速またバスへだ。一生懸命もてなしてくれる気持ちは有り難いが、イヤどうもどうもだ。

ブーゲンビリヤの赤い花の鮮やかな民家の道に行く。途中石の工芸品の店に寄りショッピングをして、フランス時代フランス人の楽しんだきれいな海浜のリゾート地へ行く。ノンヌックビーチという海岸。あたりに人影はなく、きれいな砂の素晴らしい海岸の夕景にすっかり疲れを忘れてるうち時計は6時を過ぎた。

夕食はまた、バスで外へ出かけた。これもカンさんが一生懸命準備してくれていたエビが旨いというレストラン。

特別に私に一品注文してくれた。

食事終わって表に出る。明るく光っている

店の白壁にヤモリ3匹。「いますよ、あそこに」と川本先生が家内にいう。蛇は勿論爬虫類は写真で見ただけでも気分が悪くなるほどで、旅行前からトカゲやヤモリが出てくるというのではやめると言っていた家内のことを知っているのに。「先生意地悪!」「日本に帰ったら化けてやるから」と家内ブンブン顔。

### 『平成8年4月9日(火) 第4日』

#### \*チャンパ彫刻博物館

ホテルでの初めての朝食。

テーブルには日本語でいえば『ハノイ大学ご一行様お席』という札が立ててある。

コンチネンタル式だから簡単でいい。フランスパンがうまかった。

その昔、ベトナムの中部から南部を支配していたチャンパ族のチャンパ王国が2世紀から15世紀まで栄えていた。北のベトナムに滅ぼされ今は少数民族となって、その名は歴史に埋没してしまった。チャンパ王国の遺跡は中部から南部のあちこちに点在しているがダナン近くに有名なミーソン遺跡群があるが遠過ぎるから、観光としてはダナンのチャンパ彫刻博物館を見る。チャンパの芸術・美術の数々が展示されているのを川本先生は専門的に丁寧説明して回ってくれた。チャンパは石の文化だ。

昨日着いてすぐ海浜のリゾート地へ行った時、石の彫刻の土産物店に寄ったがこの辺りはチャンパの石の文化の地だったからだ。あの時は、店の中まで入ってきた石の細工を持った女子供の物売りのしつこさにはみんなが参った。

#### \*ホイアンの日本町

16世紀の終わりころ、豊臣から徳川にかけての時代、日本の朱印船貿易が盛んな頃、東南アジア貿易で活動した人達でアジア各地に日本町が形成された。グエン(阮)氏が中部ベトナムを支配していた時代で、徳川幕府の鎖国令の出た1633年(寛永10年)頃までで、栄えたのはわずか数十年の間だった。

当時、ベトナムでは、ダナンとホイアンは貿易港として大いに栄え外国貿易が盛んであっ

て、日本のご朱印船がやって来て物産を交易し、日本人町や中国人町が出来たのだった。日本人町は早く消滅したため今は日本町の跡はほとんど残っていない。

旧日本町を歩く。数百メートルの一本道である。人通りの少ない、静かな中国風の町という感じた。日本風の家の面影を残しているのがある。学者によっては8件とかなんとかいうが川本先生の説は4件は確かだという。陶磁器類の博物館がある。日本町時代の家造りの面影を残している家屋を博物館にしている。

「このトイレがねえ、こんな建物にしちゃってダメだなあ。」と川本先生。

その通りだ。内部は現代風にきれいにしても外観は木造にすればいいのに。

日本人が造ったとされる「日本橋」という橋がある。

正式の名の「来遠橋」の額が橋の中央に掛かっている。

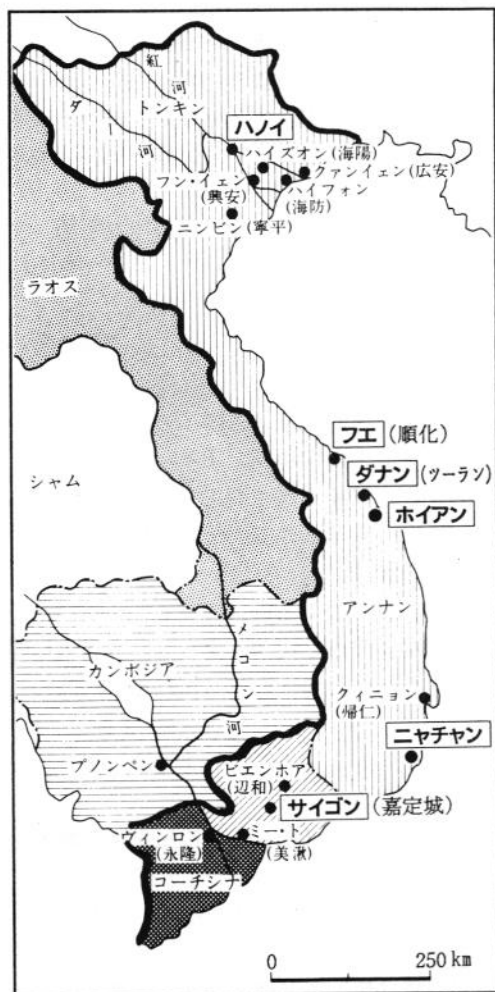
橋は20メートルぐらいの丸い橋で屋根がついている。

橋に祠があり、橋の西端に猿の像、東の端に犬の像がある。何かの縁起であろう。



朱印船時代日本町の日本人の造った橋  
通称日本橋 正式には『来遠橋』





旧フランス領インドシナ三国図と訪問地

### \* 古都フエ

ホイアンを見学して、古都フエに向かう途中にベトナムを南北に分断する約2時間で越える海拔600メートルのハイヴァン（海雲）峠がある。南シナ海の展望がすばらしい。ここを境に、北と南と文化や生活、気候もすっかり変わる。気候は変わりやすく、行く時はまったくの快晴だったがフエで2泊してダナンに戻る時は、30メートル先が見えないほどの濃霧、峠を過ぎると南はまったくの快晴で

### 朱印船入港：

朱印船はダナンの入口の海に杭を打って入れさせなかったため、貿易船はダナンに入ってから川を遡ってホイアンに行った。それで日本町も中国人の町もそこに生まれた。博物館：

ホイアンの日本町保存の話が持ち上がって川本先生もそのシンポジウムに参加されている。日本町保存のひとつとして博物館ができた。平成7年9月に誕生した。ホイアンで朱印船時代の古伊万里の皿やわんの破片が数十点出土したことから昭和女子大、千葉大、東大、都立大、東海大の建築、文化財、考古学の研究グループが600万円資金を集め、ベトナム側からはハノイ大、ベトナム考古学院などの協力でできたということである。

### 日本町：

名古屋市東区筒井町にある日蓮宗の情妙寺に朱印船がベトナムに行ったことを示す貴重な絵巻物がある。横5メートルほどの絵図に説明がついている。航海と現地の地形などの説明の絵巻で、王様に貢ぎ物を献上する様子まで描かれていて旅の詳細が良く読み取れる。これによると、船長茶屋又次郎新六とあり、朱印船は300トン程で、300人も乗船していたと推定できる。ホイアンの租界のような形の日本町では、支配者から管理者が任命されていて、角屋七郎兵衛栄吉という人が最後の日本人管理者であった。伊勢松坂の生まれで、支配者たるグエン一族の娘と結婚し、日本との音信が途絶えたあと、故郷の伊勢松坂に手紙が届けられ、ベトナムの特産品が送られてきていろいろ物品を送るようにとの注文をしてきたり何回かの便りがあり、ホイアンに自分の寺を建てたいとして釣鐘や額などの注文をして来たりした史料も残っている。

### 五行山：

ダナンの南七キロ、ホイアンとの間に標高103メートルの五行山という山がある。昨日着いてすぐ、ノンヌックビーチという海浜に行った時にふもとを通った。この五行山には観世音菩薩像があり、石碑に寛永18年（1640）の日付けと修復費寄進者名が記されており、9名の日本人の名が刻まれているというこた。

視野が開けてきた。

昔から、この峠が重要な戦争の拠点で難攻不落といわれていた。

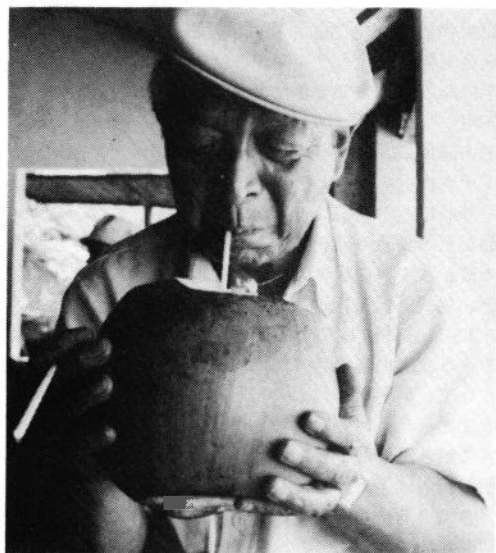
フエはベトナムの古都、日本で言えば京都、王宮中心に栄えた町。人口約30万。

ここは、ベトナム中部の支配者だった阮（グエン）氏が1802年にベトナム王朝を創立して以来の首都であった。奇麗なフォン川（香江）が流れ、この辺で川幅約300～400メートル。川の上流の兩岸には阮氏歴代の13代のうち12代の陵墓がある。13代目は、バオダイ

帝で、日本敗戦後の独立抗争で南のゴン・ジエム政権と北のホー・チ・ミンとのほざまでバりに亡命する運命となったベトナムのラストエンペラーである。

私は下痢の傾向があり、旅では食事に注意している。夕方ホテルに着いて下痢が4回に及ぶ。「何が原因かなあ」

「ああ、あの時ヤシの果汁を飲み過ぎたんだ。」



椰子の果汁を飲む

ハイヴァン峠を下りて来た途中にヤシの店があった。丸いヤシの実に穴を明けてストローで飲むからどれだけ飲んだか量がわからない。飲んだ感じでは500 ml 以上飲んだかもしれない。お陰で、ホテルに来た時近くに見かけたカラオケの店に行きたかったが取り止め。連れてってもらいたかったトウさんはガッカリ。

ホテルは HOA HONG というホテル。

“チーチー チーチー” 可愛らしい虫の声。壁の中から聞こえてくるようだ。

ヤモリだ。「あらイヤだ。」捜してもいない。どうやら壁の外で鳴いているようだ。

『平成8年4月10日(水) 第5日』

### \*フエの川を船で行く

船に乗ってフォン川沿いにあるグエン朝歴代の帝の陵のいくつかを見学に出かける。こ

の船旅は旅行前からそれを楽しみにしていた。

これまでの強行日程でみな疲れているのではないかと思うが今日のは目玉だ。

だが、80才の館セツ先生が参っているようだ。川本先生と話し合っ、家内に残ってもらうことにした。

「奥さんの行かない分、いい写真を撮って下さい」と川本先生。

09:00に屋形船に乗る。天気は良し。シャッターチャンスはいくらでもある。7層八角の美しい塔が見える。上陸し見学。その先の最も立派だとされる第2代のミンマン(明命)帝の陵を目指してゆく。18キロの船旅だ。石畳の中庭には象や馬や役人の石像がたくさん並んでいる中国風の広大な庭園様式で、立派な帝王の御陵だ。

対岸に待たせてあるバスでまたいくつかの陵を見学。熱心な川本先生の説明を真剣に聞く修学旅行生そのまま、どれだけ頭に残るだろうか?

王宮のレストランに落ち着きゆっくりと昼の食事をする。

バスをホテルに残っている館先生と家内を迎えにやって、ここから歩きながら王宮の見学、そしてまた陵をバスで巡る。ベトナムのラストエンペラーになったバオダイ帝の父第12代の陵は新しいだけにフランス風というか近代的が特徴、どの陵もそれぞれ時代による特色があることを知る。

王宮のレストランでのこと。私はブラリ歩き回りベトナム人の従業員の一人がカタコトの英語が話せるので連中と話をする。「オオ



王宮のレストランの従業員たちと

サカから来たのか」「いや、東京だ」「トーカー一人が多いネ」「人より自動車多いよ」

日本のタバコとライターをやる。肩を組んで写真を撮る。「できたら送ってくれ」とレストランの名刺を手渡してくれた。

夜は、フォン川の船遊び。船上レストランで食事の後、屋形船でこの地方の伝統芸能の楽器による音楽と歌を楽しむ。『稗つき唄』に似たメロディーの『米付き唄』という唄があった。男女が互いに愛を語る『相聞歌』だという。

川本先生と話していたら、全員のこのフェエでの2泊のホテル代・食事・バス代・船代・船上で芸能一切で1,200ドル、1人当たりすると8,000円だ。カンさんがベトナムの国内の旅行を安く済ませてうまいものを食べて貰おうと努力してくれているからだ。ホテルに21:30過ぎ帰着。



フォン川の7層八角のテイエンムー寺

『平成8年4月11日(木) 第6日』

＊リゾート地 ニャ・チャン (Nha Trang)

フェエで2泊し、ダナン空港から美しい海浜の町、ベトナムの代表的なリゾート地ニャ・チャンに飛んだ。約1時間。

ここで気楽にゆっくり自由な気分を味わおう。サイゴンは欧米化した雑踏の町であるから別に見たいところもない。今日から帰国にかけて気楽に過ごし疲れを癒やそうとする旅の終りである。

夕方前に、海浜道路に面した大きいHAI YEN ホテルに着いた。

きれいな砂浜が数キロと続く。地元の人々や外国人がパラソルの影に休み、子供たちはボール遊び。日本やその他の観光客の行く先進国の海にこんな静かなリゾート地があるだろうかと思う。

マレーシアのペナン島、フランスのニースに劣らないきれいな浜ではないかと思う。砂浜を2時間ばかり散歩する。

このホテルはスゴイ！ 広々とした庭にはきれいな熱帯の花が咲き、部屋は2部屋続きでスイートルームみたい。

これまでの日本の「TOTO」のユニットの設備のホテルもお湯が出なかった。お湯が十分に出ないですぐ水になってしまった。ここでは、十分にお湯が出て久しぶりにゆっくり浴槽につかった。「ああ、久しぶりにゆったりした気分になれたなあ」。

この国の通貨はドン。1ドルが約10,600ドンだった。円がドルに対して106円前後。5,000ドン、2,000ドンの紙幣をもらって面食らうが0を2つ指で押しえればそれが円だ。5,000ドンは50円だ。値段はドンもあればドルもある。なお日本の円も通用するがホテルとか大きな店だけだろう。私は、ほとんど買



ニャチャンの浜

い物をしないが、ドルで支払ったら、今日のドンの相場はこれこれと電卓を示しながらお釣りをくれた。これまでホテルのフロントで英語が通じず参ったが、このホテルに来て初めて英語が通じた。

『平成8年4月12日(金) 第7日』

### \*おっかなびっくり探検

ベトナムではシクロに乗ると料金をふっかけられるのは当たり前。川本先生が、ホテル前のシクロを集めてみんなで市内一巡1時間を2ドルで契約、私は世界一人ポッチのいつもの癖で風来坊。ひとり街の探検に出かけた。ホテルをみんなで一緒に出たのだったがどういわけか途中で田辺元助役のシクロが私についてきてしまった。行くと住民の住む狭い道に入ってしまう500メートル以上も走ってこれ以上シクロが入らない狭い汚らしく臭い漁民の集落でシクロを降りる。さすが田辺元助役の顔がひきつっている。数百メートルも歩いて着いたところは小型漁船のゴチャゴチャ並ぶカイ川の浅瀬や洲のきれいな河口だった。格別の風景だ。こんなところ、日本人はおろか外国人は誰も来ないだろう。良かった良かった。だが帰りが心配だった。みんなの帰り時間に間に合わないといけな。シクロ君を急がせる。ちょうど1時間の探検だった。



おっかなびっくり探検  
貧しくも素朴な漁民集落

### \*栄耀栄華の夢の跡

チャンパ王国が最後の首都としていたこの町の遺跡、ポー・ナガール塔がある。ここは8世紀にチャンパはジャワ軍に攻撃されて壊滅してしまった。ポー・ナガール塔は女神のポー・ナガールが祀ってあり人々の信仰の対象となっている。昨日、シクロで探検?したカイ川の漁港が良く見える。

「あそこだよ、あそこだよ」と田辺君がみんなに説明している。あそこからこのポー・ナガール塔はよく見えていたが、ここから見ると付近一帯なかなか良い景色だ。「気味が悪かったけれど、行って良かったねえ」と田辺君。

塔の修復工事の現場に大成建設の文字が見えた。円借款でベトナムの工事関係を日本の業者が引き受けている。ホテルのトイレはTOTO、TVはソニー、ナショナル、三菱、東芝など。

サイゴン行きは夕方で時間があったからグエン王朝最後のバオダイ帝の広大な別邸のある高台の山に行き、きれいな海を真下に見る。海を見ながら、サラッとした海風を受けて近くのレストハウスでジュースやビールを飲んで休息。

夕方の飛行機で45分、サイゴンへ。ホテルはセンチュリーホテルで広い大通りのグエンフェ通りにある。川本先生が30年前留学していた時新婚の奥さんと住んだアパートは今は変っているがその隣の建物だとのこと。

『平成8年4月13日(土) 第8日』

### \*サイゴン (ホー・チ・ミン市)

潜水艦に狙われながらダナンに避難したことは書いたが、補充兵輸送部隊の軍医として、スマトラ島の突端のアチエまで行った時に輸送を待つ間1週間ほどサイゴンに駐留した。フランス式のサイゴンのきれいな町、タマリンドの街路樹のカチナ通りの名前が、不思議と50数年の記憶から消えないでいる。サイゴンはフランスのバリを小型にしたプチ・パリであり静かだった。今は、近代都市の中をホンダの群れが無数に走り回りヒッタクリとスリが横行する近代化の先端を行く都市になっている。

朝6時半、街に出る。まだ、物売りの姿は少ない。ホテルの前に座って町に行く人を眺める。向こう側のビルの上にコニカフィルムの横50メートルもの広告、芝生の中央分離帯の時計も全部コニカ。カチナ通りはホテルの裏側に平行して走るショッピング街だった。52年の昔だからサイゴンの街の記憶はまったくない。

朝食はまたホテルから外のレストランへ。サイゴンではカンさんのオジサンというのが世話してくれていた。

朝食後、バスで旧大統領官邸（現統一会堂）へ。1975年4月30日一番乗りしたヘリが陳列してある。100以上の各種の部屋があり豪華である。次いで、二つの尖塔の赤れんが造りのサイゴン大教会で私のカメラで集合写真。

「近藤先生が昔行かれた南方軍司令部があったマジスティックホテルへ行って休憩しましょう」と川本先生。サイゴン川と道路隔てた改築されたばかりのきれいなホテルだ。

動植物公園というほどでもない公園内を散策して、また昼食に立派なレストランへ行ってから、日本語をペラペラ喋る従業員を集めた台湾系の華僑らしいスーベニアショップへ行く。日本語をペラペラ喋るせい、みんなやたらと買い物をする。この後、サイゴン地

区最大のレロイ通りにあるペンタイン市場に行く。何から何まであらゆる品物が通路にあふれ、すごい騒音、ゴッタ返す客の中で迷子になりそう。貴金属・衣料品・雑貨・靴屋・食器・肉・魚・果物・輸入化粧品など何でもある広い市場だ。そして明らかに値段は安い。そしてスリの横行。注意注意！

「ずいぶん安いわね。さっきの店で買わなきゃ良かったわねえ」の声しきり。

この後、中国人の商業活動の町シロン地区へ。物凄い雑踏で頭が痛くなる。

暗くなりホテルへ向かう。「ああ、濃密な楽しかった旅は終わる。明日は朝早いから今夜はゆっくり荷物の整理をしよう」とホテルに着くと、夕食はサイゴンの夜景を見ての船の上でだと。「参ったなあ」。館先生と家内と私はホテルに残った。

『平成8年4月14日(日) 第9日』

#### \* 出発

「先生昨夜来れば良かったのに。夜景もきれいでカラオケの歌なんか先生の好きそうなの随分ありましたよ」と皆さん楽しかったようだ。

11:00発の便に、ホテルの集合が9:30。私は内心どうかなと思いつつ空港へ。「カン



ベトナム最後のバオダイ皇帝の別邸跡の丘にて

さん有り難う」と互いに目をうるませて別れた。「さようなら さようなら」。

ところが事態はエライことになった。飛行機に乗れなかったのだ。

全員の荷物は空港に置いたまま。川本先生の寸時も休まずのあちこちとの連絡・交渉。

18:15のキャセイ香港行き、明日は香港10:00発のキャセイが決まる。香港空港のエアポートホテルに着いたのは午後11時過ぎ。明日は07:30に集合。

『平成8年4月15日(月) 第10日』

＊帰国

52年前もベトナムの女性はきれいだと思っ

た。今度もそうだったがアオザイはいい。今度の旅の間、男も女もフトツォには一度もお目にかかれなかった。

成田に無事午後2時過ぎに着いた。

いろいろあったが、普通では経験できない素晴らしい旅をさせて貰った。この旅、先生は、添乗員兼ガイド兼通訳、学術説明から買い物世話までなされ、また毎晩その日の費用の計算整理。本当に先生には文字や言葉では言い尽くせない毎日のご苦労とお世話をいただいた。奥さん共々大変なご苦労であったと思う。

心からの謝意を表しつつ筆を擱く。

(感謝を込めて：平成8年4月24日記)

## 同好会短信

# ゴルフ部便り

平成8年3月10日(日)、ゴルフ部コンペが立川国際カントリークラブで開催され、真鍋先生が優勝!!

当日は晴天には恵まれましたが、東京都の山林火災訓練が近くの山林で行われ、8~9機のヘリコプターや多くの消防車の騒音で悩まされました。この悪条件のなか真鍋先生は

日頃の練習の成果を発揮して、素晴らしいスコアで優勝されました。

上位入賞者を除いてスコアが乱れたのは山林火災訓練によるもの(?)と思います。プレー終了後、参加者の大多数の強い希望で、6月15日に北海道で次回コンペを行うことに決定しました。(高水松夫)



優勝 真鍋先生



準優勝 鈴木先生

氏名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット	順位	次回HDC
真鍋 勉	45	45	90	24	66	1	14
鈴木 修	48	46	94	27	67	2	20
瀧川 牧人	44	46	90	17	73	3	16
横田 卓史	45	51	96	20	76	4	
卞 在正	50	47	97	16	81	5	
河内 泰彦	51	50	101	20	81	6	
宮川 栄次	44	47	91	9	82	7	
内山 淳子	59	51	110	28	82	8	
片平 潤一	51	54	105	23	82	9	
高水 松夫	46	41	87	4	83	10	
杉本 一	54	54	108	24	84	11	
近藤 義智	56	65	121	33	84	12	
馬詰 良比古	47	55	102	18	84	13	
内山 大	51	49	100	15	85	14	
松原 貞一	47	55	102	16	86	15	18
川崎 健一郎	58	63	121	24	97	16	16

////////// **第三金曜会のお知らせ** //////////

**日時：5月17日(金) 午後7時30分**

**場所：バーミヤン羽村店 羽村市役所通り栄町2丁目交差点**

**テーマ：「医師会活性化」**

平成7年7月より医療問題について率直に意見交換しあい場として第二木曜会（医考会）が開かれてきましたが、次回5月より第三金曜日に変更されました。これからの医師会活動は如何にあるべきか、医師会員であることの意義から医政連まで「医師会のすべて」がシリーズで用意されています。この会は堅苦しい討論会ではありません、少量のアルコールを酌交しながら気軽に情報の交換をしたいと思えます。（文責 村山正昭）

# お知らせ

## 事務局より お知らせ

6月（5月診療分）の

保険請求書類提出日

**6月8日（土）**

— 正午迄です。 —

## 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

- ◎ 相談日 5月は8日（水）  
6月は12日（水）の予定です。
  - ◎ 場所 西多摩医師会館和室
  - ◎ 内容 医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
  - ◎ 相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
  - ◎ 申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- （注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

## 西多摩医師会写真展のお知らせ

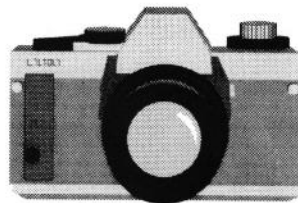
会期：平成8年5月22日（水）～28日（火）まで

会場：羽村市コミュニティセンター

11：00～18：00

多数ご来場の程お願いします

担当 稲垣





## 表紙のことは

### 『多摩川の桜道』

多摩川土手の桜は木も大きくなり、植えた当時とは見違えるようである。陸橋から上流に向かっての眺めは素晴らしい。五日市線の鉄橋近くにある高層住宅の上からの眺めが福生十景に入っているのもっともなことである。

満開の花を楽しみながら車椅子の親子が散歩している姿も好ましかったので撮らせてもらった。近くの方とは思いますがお辞儀をしたままで別れた。出来た写真も差し上げないままである。

カラーで撮っても桜はむづかしいが、眠そうな季節の雰囲気が出ていていると思っている。自画自賛というところである。

安富一夫

### あとがき

本号が当編集委員会最後の号となります。当編集委員会の成した仕事が皆様のお眼鏡に叶ったもので在ったかはいささか不安ですが、会報作りには多くの会員の皆様から、言い尽くせぬご協力、ご指導をいただきこの場を借りて心より御礼申し上げます。私事ですが編集委員としての6年間は医師会とは何かを考える良い機会であったし様々な体験・勉強をさせて頂き感無量といった所です。

玉木一弘

西多摩医師会報にはご存じのように様々な役割が与えられています。医師会の機関紙としての情報伝達、医師会活動の報道と記録、医師会外への公報、そして会員の言論、文芸や随筆の発表の場としての役割など多岐に渡ります。それは1972年の創刊以来24年に渡り、脈々と受け継がれ培われてきた形であり、会員のニーズの結晶です。その経緯を十分尊重しつつ、かつまた既成概念に囚われない、時代に即した新しい会報のあり方を模索しつづけて行かねばならないと思うのが今の率直な感想です。特に速報性が命の情報伝達についてはFaxや電子メール、マルチメディア通信の普及など、伝達手段の加速度的な変化が起きつつある今、公報のあり方も目の事としてその変革を迫られると思います。会員間のメディアの充実が医師会の活性化の要でしょう。最近、日本医師会や都道府県医師会がインターネットアドレスを開きつつあると聞きます。これは医師会の全国ネットワークが構築されることにつながります。上意下達が一瞬に行われ、一会員や一地区医師会が日本医師会長に電子メールで意見を直接送れるような下意上達のシステムが実現するかもしれません。情報の流れが医師会組織のあり方を根本から覆すことが在るかもしれません。想像は尽きませんが、豊かなイマジネーションをもって新しい編集委員会の皆様がんばって下さい。これからの若い会員の皆様も是非積極的に広報部に参加して下さい。



社団法人 西多摩医師会

平成8年5月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 玉木一弘

石井好明 奥野 仁 片平潤一 小机敏昭

高水松夫 樋口昭夫 道又正達 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993



一般医薬品  
医療機器卸

# 酒井薬品株式会社

福生営業所 ☎197 東京都福生市武蔵野台 2-34-4

☎(0425) 53-3211(代)

本社 ☎181 東京都三鷹市野崎 1-11-22

☎(0422) 47-2131(代)

営業所 小平・八王子・中野・川越

相模原・伊勢原

品質管理と安定供給をモットーに  
今日も歩むグリーンネットワーク

医薬品総合商社

## 東京医薬品株式会社

多摩支店

〒190 東京都立川市富士見町 4 丁目 2 番 1 号

TEL. 0425(28)0703(代表)

〈営業所〉

小金井第一営業所	〒184 東京都小金井市本町 6 丁目 9 番 36 号	TEL.0423(84)5181(代表)
小金井第二営業所	〒184 東京都小金井市本町 6 丁目 9 番 36 号	TEL.0423(84)5191(代表)
立川営業所	〒190 東京都立川市富士見町 4 丁目 2 番 1 号	TEL.0425(24)3361(代表)
八王子営業所	〒192 東京都八王子市大和田町 1 丁目 8 番 24 号	TEL.0426(46)7475(代表)
多摩営業所	〒206 東京都多摩市南野 3 丁目 4 番 17 号	TEL.0423(71)2671(代表)
小平営業所	〒187 東京都小平市小川東町 4 丁目 6 番 6 号	TEL.0423(43)5211(代表)
羽村営業所	〒205 東京都羽村市神明台 3 丁目 32 番 2 号	TEL.0425(55)7501(代表)

**R** RETAIL BANK  
あさひ銀行

あなたの街の  
あさひです。

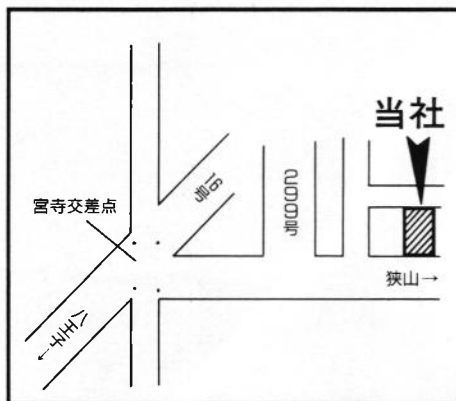


あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428-22-2121(代) ㊦198	青梅市東青梅2-17-4
奥多摩 特別出張所	TEL.0428-83-2515(代) ㊦198-02	西多摩郡奥多摩町水川1421
青梅支店	TEL.0428-22-1101(代) ㊦198	青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428-24-2401(代) ㊦198	青梅市河辺町10-2-9
福生支店	TEL.0425-51-1021(代) ㊦197	福生市福生1048
村山支店	TEL.0425-61-1211(代) ㊦208	武蔵村山市中藤4234
秋川支店	TEL.0425-58-2611(代) ㊦197	あきる野市下代継111-5
羽村支店	TEL.0425-79-0881(代) ㊦205	羽村市五ノ神4-13-10
五日市支店	TEL.0425-96-1311(代) ㊦190-01	あきる野市五日市840-1

## 健康と未来をみつめて!!

医療機関における各種検査、学校、事業所の検診  
御利用の際は御連絡下さい



埼玉県登録衛生検査所

### 武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢309-8

TEL 0429 (64) 2621

FAX 0429 (64) 6659

うれしい  
明日が  
見えてくる。

夢にあふれた素敵な星の王子様トフィーラーと犬のルーラーが、たましん総合口座のキャラクターとして人気上昇中。総合口座通帳はじめ、キャッシュカード、2wayカード、定期積金100通帳などで大活躍です。トフィーラーと一緒に夢のあるくらしをはじめましょう。

TOFFEEEROO  
© 1983-1991 SANRIO CO. LTD.  
Adrift in a sea of stars,  
I could float forever,  
Comets tickling my toes...

名譽のマイレージ  
**たましん**  
多摩中央信用金庫

最新のテクノロジーが計測します  
そして、人の眼と心が記録します

臨床検査のバイオニア  
**保健科学研究所**

本 社 〒240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1861(大代表)  
仙 台 支 社 〒983 仙台市宮城野区扇町1-3-5 TEL/022-238-9345(大代表)